

旭川未来会議 2030

農業分野テーマ

米プラスの産地づくり

—わたしたちが描く，2030年のあさひかわ農業—

2022年11月1日
農業分野

テーマについて

米プラスの産地づくり

－わたしたちが描く，2030年のあさひかわ農業－

旭川は北海道一の収穫量を誇る米どころ。しかしながら，米の消費が低迷しているほか，高齢化，担い手不足，コロナ，資材高騰等々，様々な課題に直面している。

こうした中で，旭川の農業をさらに発展させ，将来にわたって魅力ある産地づくりを進めていくため，米どころという強みに加えて，旭川の農業にとって「プラス」となる新たな取組や可能性について議論した。

農業分野参加者

鹿野 剛	清水 光子
川村 さくら	高橋 直人
佐藤 絢也	谷越 亜紀
佐藤 まどか	野崎 達也
佐野 敏子	守屋 大輔

(50音順, 敬称略)

- 農業者
- 市場関係者
- 公募者

平均年齢 46.7歳

会議経過

日付	内容
7月14日	第1回会議 (現状, 未来像について意見交換)
8月31日	第2回会議 (具体的な取組について意見交換)
10月17日	第3回会議 (報告会向け意見整理, 資料作成)

現状を知る ～SWOT分析の結果～

米プラスの産地づくりというテーマに対し、どうアプローチしていくかを整理する目的で、あさひかわ農業の現状について項目ごとに分析

強み (Strength)

- ・多品目栽培
- ・旭川出身著名人の存在
- ・米づくりが盛ん
- ・高い栽培技術
- ・新規就農者の育成
- ・寒暖差が大きい
- ・都市（消費地）に近い
- ・流通、交通の利便
- ・クリーン農業の取組
- ・災害が少ない
- 等

弱み (Weakness)

- ・高齢化
- ・後継者，労働力不足
- ・代表作物の目玉がない
- ・知名度が低い
- ・商品プロデュース力が弱い
- ・農業生産量，生産額の減
- ・JAが分散している
- ・販路が少ない
- 等

機会 (Opportunity)

- ・水資源など豊かな環境
- ・温暖化による生産可能作物の拡大
- ・北海道ブランド
- ・PR機会増
- ・農業への関心の高まり
- ・北海道の真ん中
- 等

脅威 (Threat)

- ・高齢化，人口減少
- ・温暖化に伴う異常気象
- ・コロナ
- ・安く新鮮な輸入農産物の広がり
- ・世界情勢変化
- ・糖質制限（米の消費減）
- ・機械化による資金負担増
- ・国の制度変更(水活)
- ・資材，肥料，輸送等コスト増
- 等

農業分野が考える2030年の旭川のあるべき姿

**私たちが、次代の人たちが、
楽しく農業をし続けているまち**

あるべき姿：「私たちが、次代の人たちが、 楽しく農業をし続けているまち」を考えた理由

SWOT分析の結果を踏まえ、あさひかわ農業を将来にわたって持続的に発展させていくためには、まず、**旭川に目を向けて**もらい、あさひかわ農業の**ファンを増やしていく**ことが重要ではないか。

それを実現するには、何より2030年も私たちが、次代の人たちが**楽しく農業をし続けている**ことが必要である。

人は楽しそうにしていること・ところに興味を持ち、魅力を感じ、惹きつけられる。惹きつけられた人は、旭川に目を向け、知り、訪れ、あさひかわ農業や農産物のファンとなり、定着するという好循環が生まれると考えた。

あるべき姿を実現するための3つの視点と方向性

1 儲かる農業

生活が豊かであることによりモチベーションを維持し、楽しく農業を続けられる。そのためには新たなチャレンジも必要。

- ➡ ①新たな品目へのチャレンジや生産拡大
- ➡ ②無駄なく全て売り尽くす仕組づくり
- ➡ ③付加価値の向上

2 見（魅）せる農業

楽しいことを増やして、楽しんでやっている旭川の農業をたくさんの人に知ってもらおう。さらには一緒に楽しんでもらいたい。

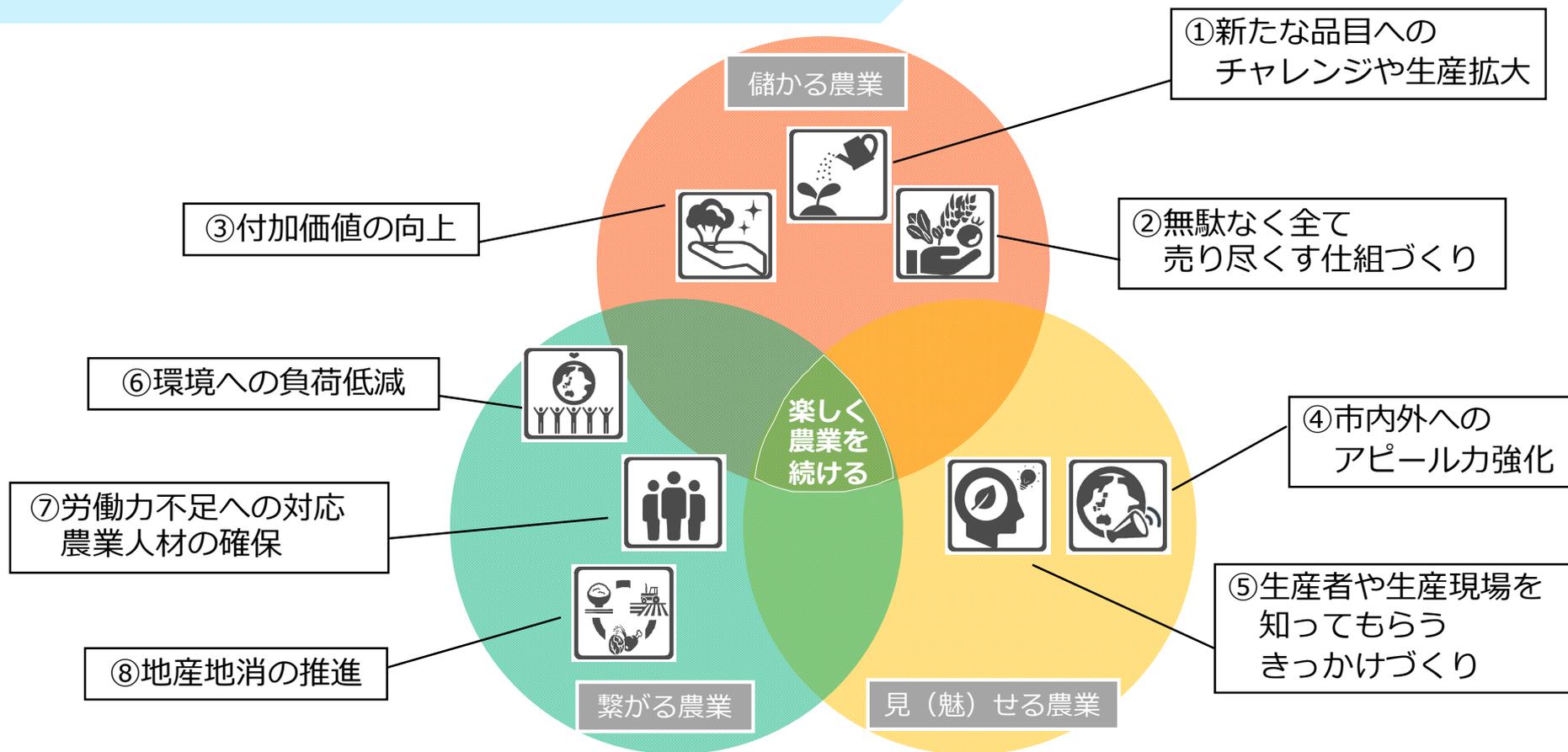
- ➡ ④市内外へのアピール力強化
- ➡ ⑤生産者や生産現場を知ってもらう
きっかけづくり

3 繋がる農業

世界情勢が大きく変化している今こそ、これまでのやり方や意識を変えていく転換期。それが農業者と消費者を繋ぎ、さらには未来へと繋がる。

- ➡ ⑥環境への負荷低減
- ➡ ⑦労働力不足への対応，農業人材の確保
- ➡ ⑧地産地消の推進

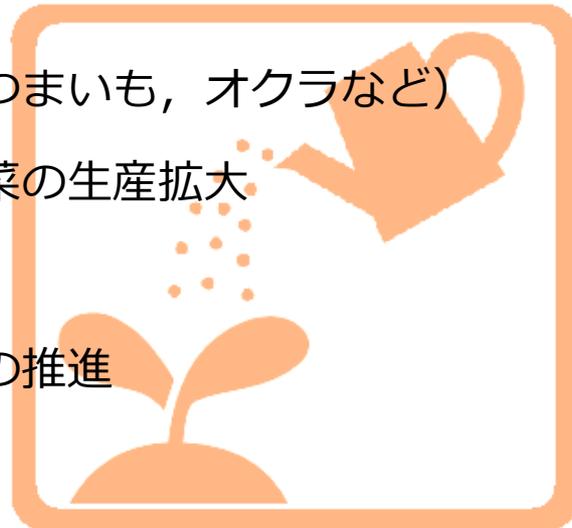
3つの視点と8つの方向性



「儲かる農業」に関する具体的な取組

1 新たな品目へのチャレンジや生産拡大

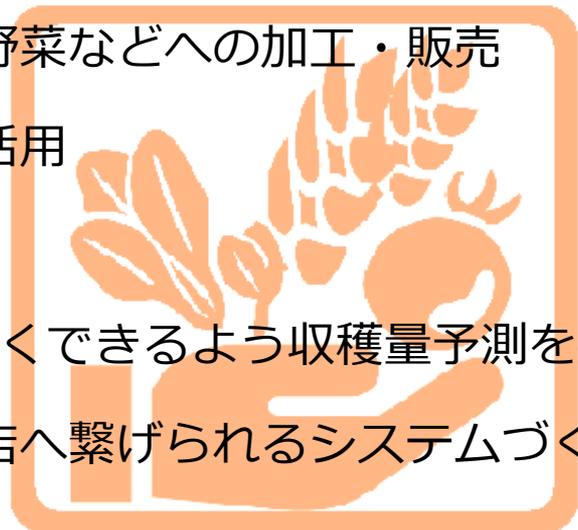
- ✓ 新たに選定した高収益作物などの生産拡大（さつまいも、オクラなど）
- ✓ 競合相手が少なく、売れ行き好調な冬季栽培野菜の生産拡大
（寒締めほうれん草、雪の下にんじんなど）
- ✓ 多品目栽培や品質・収量向上のための基盤整備の推進



「儲かる農業」に関する具体的な取組

2 無駄なく全て売り尽くす仕組づくり

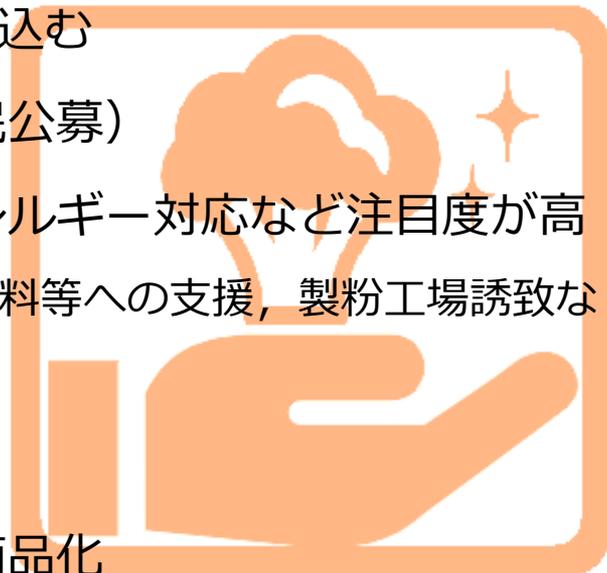
- ✓ 規格外野菜をカット野菜やセット（キット）野菜などへの加工・販売
- ✓ 廃棄しなければならない野菜（部分）を有効活用
- ✓ ECサイト等を活用した販路拡大
- ✓ 売る側（市場，販売者）が販売計画を立てやすくできるよう収穫量予測を共有
- ✓ 農産物（余剰分を含む）を必要とする人やお店へ繋げられるシステムづくり



「儲かる農業」に関する具体的な取組

3 付加価値の向上

- ✓ 輸入品消費を抑えたり、国内外へ拡販を視野に入れ、旭川の農産物を冷凍野菜の原料として売り込む
- ✓ 差別化のためのネーミング（例えば、市民公募）
- ✓ 米の消費増を目指し、小麦価格高騰やアレルギー対応など注目度が高い米粉の利活用拡大（施設整備や製粉所利用料等への支援、製粉工場誘致など）
- ✓ 旭川の米や野菜を使用した菓子開発など
- ✓ 他業種（地元業者）とのコラボによる商品化



「見（魅）せる農業」に関する具体的な取組

4 市内外へのアピール力強化

- ✓ 市民広報誌など、保管性や視認性の高い紙媒体の特異性を活かした情報発信
- ✓ YouTubeやTikTokなどを含めたソーシャルメディアの効果的活用による情報発信
- ✓ 旭川ゆかりの著名人やインフルエンサーを起用したPR活動
- ✓ デザイン都市として、農業と旭川デザインプロデューサーなどとの連携
- ✓ タクシーやバスなど、公共交通機関を活用した旭川農産物のPR



「見（魅）せる農業」に関する具体的な取組

5 生産者や生産現場を知ってもらおうきっかけ作り

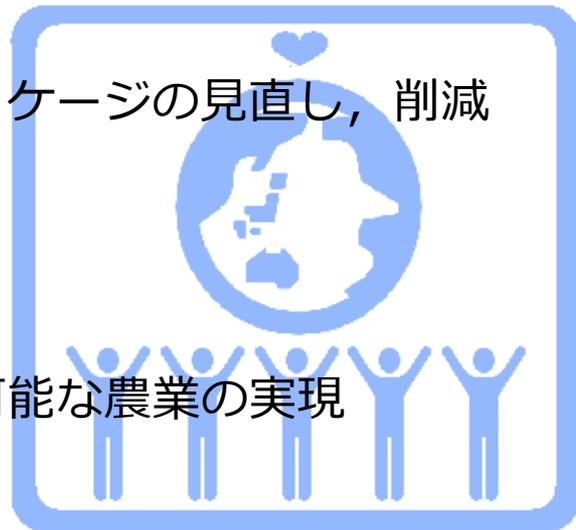
- ✓ 米どころならではのイベント開催
(米プラス土俵づくり, 泥んこ相撲, 絵画コンクールなど)
- ✓ 体験型ふるさと納税返礼品の強化
(農産物 + 農作業体験の提供など)
- ✓ 実は身近にある農業や食の大切さを知ってもらうため,
子どもたちへ農業体験機会を提供



「繋がる農業」に関する具体的な取組

6 環境への負荷低減

- ✓ エコロジカルな素材活用や量り売りなどパッケージの見直し, 削減
- ✓ 消費者, 流通・小売業者を巻き込んだ
地球環境に配慮したパッケージへの理解醸成
- ✓ みどりの食料システム戦略を実践し, 持続可能な農業の実現



「繋がる農業」に関する具体的な取組

7 労働力不足への対応，農業人材の確保

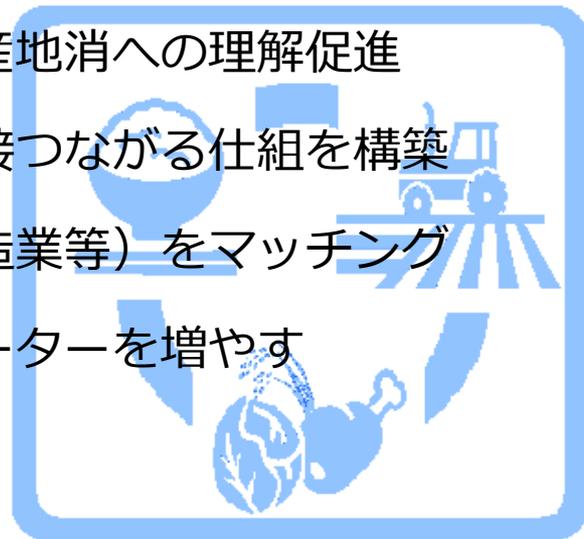
- ✓ スマート農業のさらなる普及・拡大により，
農家のワークライフバランスの実現，就農へのハードル低減
- ✓ 営農の法人化で農業生産者をサラリー化することにより
農業への就業率アップ
- ✓ 今までの実績を活かした道内外からの
新規就農者確保，受入側の負担軽減



「繋がる農業」に関する具体的な取組

8 地産地消の推進

- ✓ 安心安全や価格安定などメリットが多い地産地消への理解促進
- ✓ 直売所やこども食堂など農家と消費者が直接つながる仕組を構築
- ✓ 農家と地元業者（飲食業，製菓業，弁当製造業等）をマッチング
- ✓ 食の重要性を多くの人に伝え，将来のサポーターを増やす
（農業者による学校への出前講座など）



その他 こんな意見もでした

- ✓ 輸出を見越した作物の栽培及び品質が維持される冷凍技術等最新技術での加工
- ✓ 農家さん主催の料理教室やワンポイントレッスン
- ✓ 両者の課題を一緒に解決し、Win-Winな関係構築を実現する農福連携の推進
- ✓ 旭川を拠点として農業体験をしつつ、近隣町村の温泉を楽しむ
- ✓ 生産者を知ってもらって農作物を買ってもらえるように農家のホームページを作る
- ✓ 農協をひとつに！
- ✓ スマート農業の現状にあった技術革新
- ✓ 旭川の畑は一面、〇〇だけ！
- ✓ 朝ごはん給食で旭川産米のおにぎりを
- ✓ 地場作物の生食、惣菜、スイーツが1か所で楽しめる施設づくり
- ✓ 新庁舎での旭川の生産物を使った料理の提供、農業イベントの開催

未来会議 2030 農業分野に参加して ～感想～

- もっと農業について話したかった。
- 知らないことを知ることができ、楽しかったし、勉強になった。
- いろいろな角度から意見を聞くことができ、これからの農業経営における選択の幅が広がった。
- 会議で議論したことが全て実現できれば、将来私たちの後を担ってくれる人たちは幸せ。
- 作り手のこだわりなども知ることができ、今後、販売の仕事で生かせそう。
- 旭川市民、特に子ども達に旭川の農業は素晴らしいものだということを伝えていきたい。そうすることで、農業の土台ができると感じている。
- これからも、作っている方の気持ちをのせて、食事を提供していきたい。
- 農業を知れば知るほど好きになるし、みんなにも好きになってもらいたい。
- これから農業は宝物になっていくと思う。旭川市民が、農業は大事だと思うように繋がることができたら良いと思う。
- 作る側、売る側、食べる側の全員が幸せになるというのが、今回の会議の目的であったと思う。